

2026年度 チームまなび・研究 年間計画

I 活動方針

学習指導要領のねらいや本校の児童の実態をふまえて、授業力向上を図る研修や基本的な学習指導等のあり方について研修推進に取り組む

II 活動の重点

- ・視点を意識した授業や活動を通して、成果や課題を発見・改善し、児童の学力を向上させる。
- ・日常的に授業を参観し合い、学校全体の児童の課題を共有し、その改善策を追求・実践する。

III 活動計画

	分掌業務項目	業務内容	担当	時期（学期）			
				1	2	3	通
①	学校課題、研究課題 解明の研究体制と推 進に関する事項	研究主題の決定					
		研究推進委員会の開催					
		研修だよりの発行					
		研究集録の発刊・原稿集約					
		校内授業研究の企画・提案					
②	日常授業に生きるミ ニ研修の研修	ミニ研修会の計画・実施					
		道徳教育・道徳科に関する研修の実施					
③	各種研究会、研修 会、講習会への参加	研究・研修会案内の回覧・申し込み希望の 集約（申し込みは本人。申込書コピーの提 出）					
④	職員図書 の保管と購 入計画に関する事項	研修図書 の選定・購入・保管管理 ・希望をとりながら予算内で購入を行う。 ・保管は資料室（職員室内）。使用しやす い整理に努める。					
⑤	その他、研修に関す る事項	後志へき地・複式教育研究連盟との連携・ 調整					

*別紙

研究係 年間推進計画

I 研究主題

学びの主役は「自分」

～一人一人の「やってみよう！」を引き出す授業を目指して～

1 主題設定の理由

本校は、全校児童 29 名の複式学級でなる小規模校である。児童の約 7 割程度は児童福祉施設から通学しており、年度途中の転出入も多くみられる。高学年と低学年の関わりも多く、全校遊びや縦割り班活動を通して、お互いに関わり合いながら活動に取り組んでいる。

昨年度は、研究主題を「学びの主役は自分～ 一人一人の『やってみよう！』を引き出す授業を目指して～」と設定し、言語活動の充実を中心に研究を進めた。特に、児童が単元のねらいや活動内容に主体的に向かうことができるよう、各単元のゴール設定に工夫を施し、興味・関心を高める学習環境の構築を図った。また、児童の主体的な学びを一層促進する手立てとして、自由進度学習を一部の学年で試行的に導入した。

その結果、単元のゴールを明確化したことで、児童が学習の見通しをもち、意欲的に学習へ取り組む姿が全校的に見られた。一方で、ゴールを重視するあまり、単元内で扱うべき内容の指導が十分に行えなかった例があるなど、改善すべき課題も明らかになった。特に、自由進度学習を導入した場面においては、育成を目指す資質・能力が明確でなかったため、効果的な指導に結びつきにくい状況も見受けられた。

このような実態を踏まえ、本年度の研究においても、昨年度に引き続き言語活動の充実を柱として取り組みを進めていく。その際、各単元で育成を目指す資質・能力を一層明確にするとともに、指導と評価の一体化を図ることで、児童の学習の質を高め、確かな学力の育成につなげていくことを目指す。

2 研究で目指す子供像

- ① 問題と向き合い、課題を自ら見つける児童
- ② 課題を解決するために、自分に合った方法を見つけ、進める児童
- ③ 友達と協働して、学び合いながら授業を進める児童
- ④ 単元のゴールを目指して、自分の考えをまとめ、表現する児童

3 研究内容

(1) 言語活動の充実

言語活動の充実を図るにあたって、最初に考えるべきは国語科の授業改善である。各教科等においては、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、知的活動(論理や思考)やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割をふまえて、言語活動を充実させる必要がある。

こういった観点から、国語科の授業をメインとし、そこから他教科にも繋がるように研究を進めていきたい。従来の

国語科・物語文の授業では、本文を読み、初発の感想を書き、段落ごとに読み解くといった授業を行ってきた。しかし、これは日常における読書の形態からもかけ離れ、児童が主体的に学習する機会を与えられていない。必要などころを読み、情報収集する。文章を読み解くために、同じ読者の違う作品を読んでもみるなど、児童の主体的な思考や判断の有無を取り入れていく必要がある。

①単元のゴール

単元のゴールは、児童が「どこに向かって学習するのか」を理解するための重要な手がかりであり、学習への主体的な参加を促す基盤となる。従来の学習では、教師主導で学習内容が提示されることが多く、児童が学習の意義や目的を十分に理解しないまま活動を進めてしまう場面も見られた。そのため、

- 児童自身が学習の意図を理解しにくい
- 活動が作業的になり、本質的な思考が深まりにくい
- 単元内で育てたい資質・能力とのつながりが曖昧になりやすい

といった課題が生じていた。

このような実態から、児童が「何のために学ぶのか」を明確に理解できるよう、単元のゴール設定そのものに工夫を施す必要がある。

単元のゴールを児童にとって分かりやすく、見通しがもてる形に明確化することで、以下のような教育効果が見られる。

◎学習の見通しが生まれ、主体的な取り組みが増える

ゴールが明確になることで、児童が「何を目指して学ぶのか」を理解し、活動の意味づけができる。その結果、学習への意欲や参加の度合いが高まる。

◎学習活動を自分で選択したり、調整したりする力が高まる

特に自由進度学習と組み合わせる場合、目標が明確であることで、子供たちは自分に合った学習の進め方を考えやすくなる。学習計画の立案や、必要な課題の選択がスムーズになる。

◎指導と評価の一体化が進み、教師側の指導の質も高まる

ゴールが明確であれば、育てたい資質・能力が浮き彫りになり、教師は単元の中でどの活動を重視すべきか判断しやすくなる。同時に、評価の観点が明確になり、学習の振り返りも効果的に行える。

◎子ども同士の協働が促進される

共通のゴールを共有することで、友達の考えを参考にしたり、協力したりする場面が自然と生まれる。学習プロセスにおける対話の質も向上する。

②単元計画の作成

昨年度は、児童の興味・関心を喚起することを目的として、単元におけるゴールを工夫して設定した。その結果、児童が主体性をもって学習活動に取り組む姿が多く見られるようになった。しかし一方で、ゴールの提示を重視するあまり、そこに至るまでの過程において育成すべき資質・能力が十分に明確化されず、単元を十分に構造化できないまま終えてしまった事例も確認された。

また、本校の児童の実態として、学習に自ら主体的に向かおうとする姿勢は依然として十分とは

言えず、自ら課題の水準を調整し、より高い目標を志向する段階には至っていないのが現状である。したがって、本年度の研究では、まず教師が単元計画を精緻に作成し、育成すべき資質・能力と評価の観点を明確に整理したうえで児童に提示することが不可欠である。

こうした見通しの共有は、児童の主体的・対話的で深い学びを促すとともに、指導と評価の一体化を図るための基盤となる。今後は、単元を通して育てたい力を整理し、学習過程の中でそれらが確実に育成されるよう指導計画を構築していく必要がある。

(2) 複線型授業

昨年度まで本校では、自由進度学習に関する研究を進めてきた。しかし、その実践を通して、学習の進度を自ら調整する自己調整力や、学習課題を主体的に選択・決定する自己決定力など、自由進度学習を効果的に進めるために必要な力が、児童に十分備わっていない現状が明らかとなった。

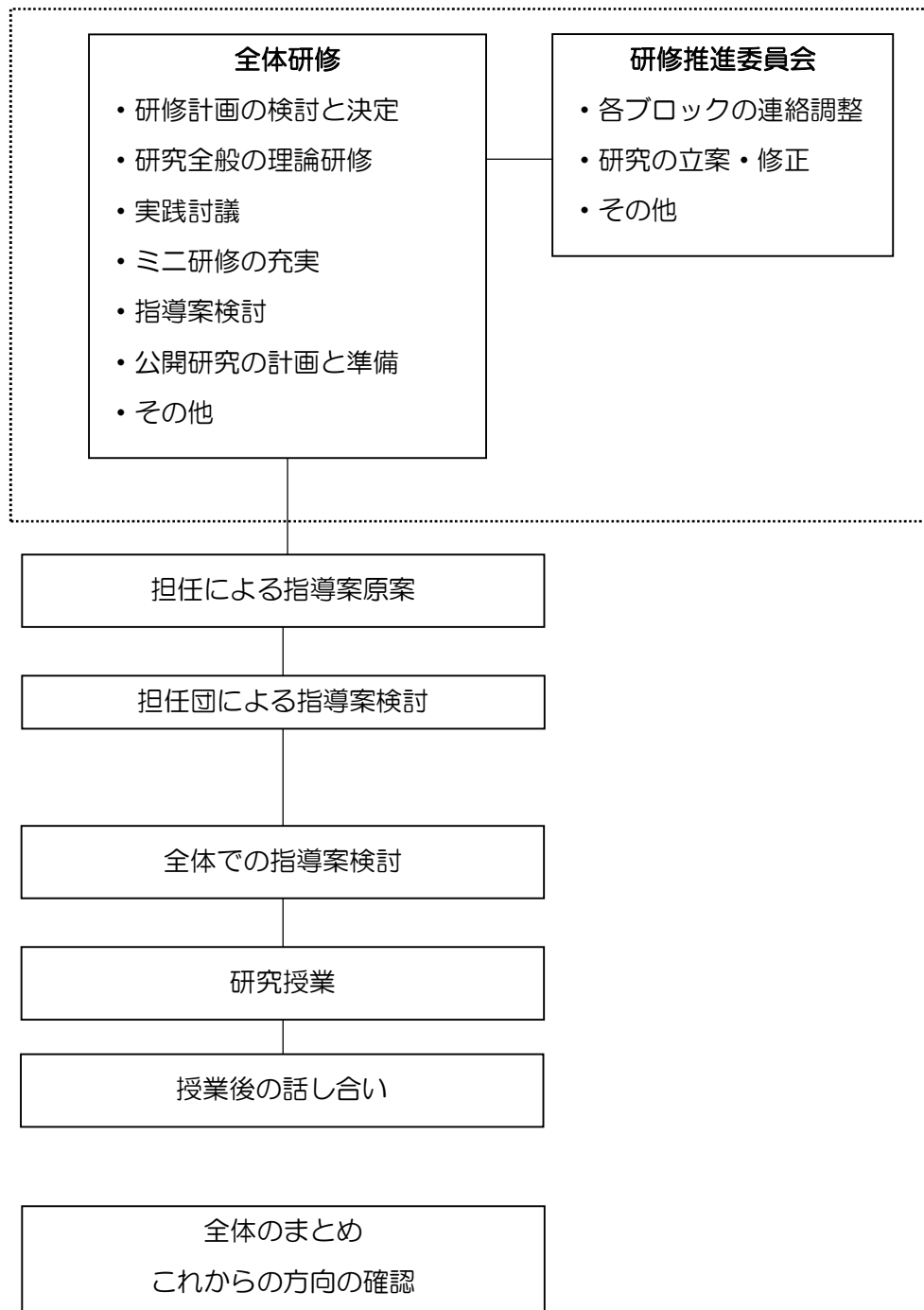
こうした状況を踏まえ、本年度は、児童が学習内容を自由に選択する自由進度学習ではなく、教師が学習課題や単元構造を計画的に設計し、そのうえで児童が学び方を選択できる**複線型授業**の研究を進めていくこととする。

II 推進計画

年次	段階	主な活動
1年次 令和7年度	研究の方向付け と実践検証 (言語活動の充 実と単元計画の 蓄積)	○研究概要の確認、修正 ○日常的な授業実践 ○各学級での実践交流 ○理論研究 ○校内研究授業の実施と検証 ○他校研究会への参加 ○今年度の評価と次年度への課題
2年次 令和8年度	実践検証と課題 追及 (より効果的な 自由進度学習)	○研究概要の加除修正 ○各学級での実践交流 ○日常的な授業実践 ○理論研究 ○校内研究授業の実施と検証 ○他校研究会への参加 ○今年度の評価と次年度への課題
3年次 令和9年度 後へき研究大会	研究のまとめと 課題の整理	○研究概要の見直し ○各学級での実践交流 ○理論研究 ○校内研究 ○授業の実施と検証 ○他校研究会への参加 ○研究のまとめと次年度 の研究にむけて

※1 情報体系表に基づくものとする。

Ⅲ 研究組織



【組織の構成】

- ◆研究推進委員会
研究係 ○

- ◆授業後のファシリテーターは輪番で行う。

IV 全体構造図

学校教育目標

豊かな心で学び続ける たくましい子の育成

- ◎ よく考え 進んで学ぶ子（知）
- ◎ 明るく 思いやりのある子（情）
- ◎ ねばり強く やり抜く子（意）
- ◎ すこやかで たくましい子（体）

重点目標：多様性を認め 高め合い 自ら学び 個性輝く子供の育成

研究主題

学びの主役は「自分」

～一人一人の「やってみよう！」を引き出す授業を目指して～

目指す子供象

- ① 問題と向き合い、課題を自ら見つける児童
- ② 課題を解決するために、自分に合った方法を見つけ、進める児童
- ③ 友達と協働して、学び合いながら授業を進める児童
- ④ 単元のゴールを目指して、自分の考えをまとめ、表現する児童

言語活動の充実

① 単元のゴールの工夫

○児童が「何のために学ぶのか」、を理解し、見通しをもって学習に臨めるように、単元のゴールそのものを改善していく。

○児童の興味・関心を高めることで、主体的に学習を進めていけるように改善する。

② 単元計画の作成

○単元計画を製作すること単元で育てたい資質、能力を明確にする。

○どの活動が評価観点と結びつくのかを整理するため、指導と評価を一体化することができる。

V 年間計画

月	日	研修内容	ミニ研修
		漢字ドリルの精選 学習用語の配布 言葉のたからばこシート	
4	2	研究内容、推進計画と今年度の全校での取り組み(全) 担任団 今年度の活動 おしよろスタイルについて(該当教諭) 情報教育からICT(該当教諭) 図書システムについて(該当教諭)	おしよろスタイル ～算数科・国語科～
4	16	指導案検討	
5	14	指導案検討	
5	28	指導案検討	
7	16	研究授業 事後検討会	
8	27	検証授業指導案検討	
9	17	検証授業指導案検討	
10	1	検証授業指導案検討	
11	26	検証授業	未定
1	18	研修アンケートについて	未定
1	28	次年度の方向性について	未定